



2016(平成28)年10月25日発行

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)

住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15

TEL/06-6879-5021

http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載(この紙面は再生紙を使っています)

おかしいと感じたら迷わず対応 「児童虐待」の早期発見に取り組む

本院では、児童虐待を発見・確認するため、「初期対応マニュアル」と「除外対応マニュアル」を作成し活用しています。病院内の全職員が、虐待されている児童やその保護者に出会う可能性があるため、「初期対応マニュアル」には、虐待を発見するためのポイントや初期対応の手順などを掲載し、疑わしい事例の発見を促すとともに、迅速的確な対応ができるようサポートしています。特に高度救命救急センターに搬送された外傷の児童については、看護師が例外的にスクリーニングを実施し

「対応マニュアル」で虐待症例を発見・確認



奥山宏臣・児童虐待防止専門委員長

平成26年度に全国の児童相談所へ寄せられた「児童虐待」に関する相談対応件数は8万8931件(大阪府内1万3738件)にのぼり、年々増加しています。また平成20年に改正された児童虐待の防止等に関する法律(など)で、病院には児童虐待の早期発見に努め、通告する義務(守秘義務に優先)があるとされています。本院は平成23年5月、「児童虐待防止委員会」と、その下部組織である「児童虐待防止専門委員会」を設置し、医師・看護師など医療スタッフによる虐待の早期発見・対応に努めています。

また、本院は全臓器の移植が全国で最初に認可された病院でもあり、臓器移植に関する法律の施行に伴い、虐待の可能性のある児童から臓器移植が行われないよう十分に確認することが求められています。そのため「除外対応マニュアル」には、被虐待児を除くための手順が明確に記載され、確認作業が限られた時間内で迅速に的確に行われるよう

大阪大学医学部附属病院
児童虐待初期対応マニュアル

また、本院は全臓器の移植が全国で最初に認可された病院でもあり、臓器移植に関する法律の施行に伴い、虐待の可能性のある児童から臓器移植が行われないよう十分に確認することが求められています。そのため「除外対応マニュアル」には、被虐待児を除くための手順が明確に記載され、確認作業が限られた時間内で迅速に的確に行われるよう

虐待が疑わしい症例を発見した場合、従来は主治医などが個別に対応していましたが、現在はまず、連絡を受けた医療ソーシャルワーカー(MSW)が、速やかに院内連携を図り関係機関との窓口となる体制を構築しています。MSWは状況に応じて主治医から情報を収集し、その内容によって委員会が招集され、児童相談所などに通告するかどうかを検討されます。また、通告にいたった後も、主治医や看護師長など病棟のスタッフと関係機関が連携し、被虐待児が安全に医療を受けられる環境づくりに配慮しています。発見から通告までの流れが本院全体のシステムとして一本化されたことで、役割分担が明確になり、個々の医師や看護師にかかる実務的・精神的負担が軽減され、本来の医療により専念できるようになりました。



児童虐待防止専門委員会のメンバー

また、児童虐待対応の体制が医師や看護師、職員に周知されたことで、院内において児童虐待に対する認識が高まり、平成23・27年度の対応件数は36件(そのうち身体的虐待が15件、ネグレクト14件、精神的虐待は7件)となっていました。しかし、「これらは氷山の一角。病院に来ていない、あるいは行政サイドに声が届いていない症例が多くあるはず。私たちは来院された被虐待児

を絶対に見逃さないようにしたい。そのためにも今後、児童虐待に対する知識や経験を持つ医師・看護師・MSWなどの層を厚くして、虐待症例にさらにしっかりと対応できる体制を拡充していきたい。また、現在の児童虐待対応は18歳までの児童が対象。その年齢を超えた未成年や、近年増加しつつある高齢者虐待についても、発見・対応できるシステムを検討していきたい」と、奥山宏臣児童虐待防止専門委員会委員長(小児外科診療科長)は熱意を示しています。

中央治験・倫理審査委員会事業に採択されました

本院に設置されている臨床研究に関する倫理審査委員会は、平成27年、全国で初めて厚生労働省による認定を受けました。この度さらに、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の治験および臨床研究の倫理審査に関する中央化のモデル事業に採択されました。日本の現状では、例えば、20施設で共同臨床研究を行うには、20の倫理審査委員会に申請しなければなりません。これを1カ所で審査することを目指すものです。これにより手続きは簡略化されますが、どのように研究の質を維持するかが今後の大きな課題です。本院は、医療法上の臨床研究中核病院ですので、最先端の臨床研究と最高の被験者保護の両輪で日本を牽引し、患者さんの光明になるような成果を次々と生み出すことが期待されています。

国公私立大学附属病院医療安全セミナーを開催



本院では、7月14日から15日にかけて、「平成28年度国公私立大学附属病院医療安全セミナー」(文部科学省後援)を開催しました。このセミナーは、全国の大学に所属する医療安全の担当者らに最新の知見を紹介するため、平成16年から本院が毎年主催しているもので、今回は医師、看護師、薬剤師、事務職員など、計447名の参加がありました。本プログラムでは、本年6月に見直された特定機能病院の新しい承認要件、レジリエンス・エンジニアリングの医療安全への展開、チームで取り組む栄養管理や転倒対策などを取り上げ、他業種からは全日本空輸株式会社や株式会社小松製作所の第一線で活躍されている方を講師として招へいしました。参加者からは、「様々な講演を聴き視野が広がった」、「臨床業務の参考にしたい」といった意見が多数寄せられ、好評のうちに終了しました。

阪大病院おすすめ御膳

病院長おすすめ御膳



- メニュー
- ピラフ
 - ミートグラタン
 - ソテー
 - サラダ
 - デザート

8月31日は野口病院長おすすめ御膳でした。病院長の好物の一つであるグラタンは病院食でも人気メニューであり、さらに新メニューのピラフとセットにしました。主食がお粥の患者さんには、ピラフではなくリゾット(洋風粥)をご提供しました。デザートには、シュークリームまたはゼリーをつけました。ゼリーは、金魚型に型抜きしました。患者さんからは、「豪華だった」「金魚ゼリーが可愛かった」などいつもと違う行事食に好評をいただきました。

看護部長おすすめ御膳



- メニュー
- 鮭の塩焼き
 - 田楽添え
 - すまし汁
 - 酢の物
 - デザート

6月16日に「精進料理のよう」にヘルシーだと満足感のあるメニューをコンセプトとした、越村看護部長おすすめ御膳をご提供しました。看護部長と相談し、デザートに初夏を感じる水饅頭または手作りのあじさい風ゼリーをご用意しました。あじさい風ゼリーは牛乳とぶどう果汁の2層のゼリーで、見た目にもこだわりました。メニューカードとランチョンマットもあじさい柄で揃え、梅雨の鬱陶しさを忘れさせるような爽やかな雰囲気になりました。患者さんからは、「上品な味付けで嬉しい」「薄味を家でも参考にします」という感想をいただきました。

PHOTO ホスピタルミニ・ニュース TOPICS

7/26 1日看護師体験



大阪府立吹田東高等学校の高校生9名が参加しました。写真は乳児の沐浴を介助する高校生(左)

病院見学会報告

9/28



一般市民の方を対象とした病院見学会を今年も開催しました。ドクターヘリや病理部など、普段は見ることのできない場所を見学し、参加者からは「医療スタッフの方々の態度に感銘を受け、さらに信頼度が増しました」「ドクターヘリを間近で見ることができて感動しました」などの声をいただきました。

10/14 秋のミニコンサート



市民公開フォーラム参加者募集

「がん患者さんを支える取り組み -いろいろな可能性との出会いのために-

- 日時:平成28年12月10日(土)午後1時~3時30分
● 場所:大阪大学医学部講義棟A講堂
● 募集人数:240名(先着順)※定員になり次第〆切
● 申込期限:11月30日(水)【必着】 参加費無料

- ①がん患者さんへできること -リハビリテーションの立場から-
②相談支援センターでの取り組み -ウィッグ展示、がんサロン-
③患者さん同士の助け合い
④オンコロジーセンター棟での開催企画
⑤質問コーナー

申込方法:FAX、メールまたは葉書に必要事項(①氏名、②郵便番号、③住所、④電話番号、⑤性別、⑥年齢、⑦参加人数(4名まで可))を明記のうえ、下記へお申込みください。
※本院では番号非通知の電話・FAXは受信できませんので、頭に186(番号通知)をつけておかけください。
※車いす利用者など、支援が必要な方は予めお問い合わせください。
宛先:〒565-0871 吹田市山田丘2-15
大阪大学医学部附属病院総務課広報評価係
FAX:06-6879-5019
E-mail:ibyou-soumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp
Tel:06-6879-5020,5021
※決定通知は参加の可否を葉書でお知らせいたします。

整形外科では、患者さんが元気に楽しく長生きができるような「健康寿命」の延伸を大きな使命としています。年齢による変性・変形や機能低下、疼痛などを訴えて来院される患者さんに対して、的確な診断と最新の治療に加えて、充実したリハビリテーションを提供し、症状が



「健康寿命」の延伸をめざす 整形外科 専門性の高い診療で

出現する以前の状態以上に機能を回復することを旨とした治療を行っています。また、使い過ぎによる疼痛やケガによる機能障害を訴える患者さんに対しては、原因となる身体の使い方などを説明し、今後障害をくり返さないような指導や予防も行っています。

本院の整形外科の特色は、8グループに分かれ、各グループが独立して専門性の高い診療を行っている点です。専門に特化した診療を行うことで、詳しい病状や病態の解明が可能となり、手術術式の改良につながるなどのメリットがあります。整形外科は分野が広く、内臓と脳を除く全身の筋肉・骨・腱・靭帯・末梢神経を扱いますが、それらを網羅する診療を各グループが分担して行っています。それぞれのグループの主な診療内容は、「腫瘍」が骨・軟部腫瘍や転移性骨腫瘍、「股関節」が変形性股関節症、寛骨臼形成不全、「リウマチ・関節疾患」が関節リウマチ、変形性膝関節症、「肩関節」が肩腱板損傷、反復性肩関節脱臼、投球障害肩、「脊椎外科」が頸椎後縦靭帯骨化症、脊椎変形、腰部変性疾患、「小児整形」が先天性内反足・股関節脱臼、脚長差、「手の外科」が先天性奇形、上肢外傷後変形、「スポーツ整形」が膝関節靭帯・半月板損傷、膝蓋骨亜脱臼、足関節靭帯損傷、スポーツ障害などとなっています。

万全のチェック体制により「安全で質の高い手術」を

手術部



手術部の業務は、年間1万件を超える手術を行う「手術室」の管理・運営です。各診療科が「安全で質の高い手術治療を効率よく」行える環境を提供する役割を担い、手術室をはじめ、手術をサポートする医療スタッフ(看護師・技師・薬剤師などのチームワーク)、手術に用いる器材などを常に最高の状態に保つよう尽力しています。

現在、外科系15科、内科系6科の計21診療科の手術治療が実施されており、年間の手術件数は平成26年度に1万件を超え、平成27年度には1万347件となりました。国立大学病院としては屈指の実績を重ねています。

また、当部は治療の現場であるとともに、医師や看護師などを育成する教育の場、大病院院の使命でもある最先端医療などを追究する研究の場でもあります。一般的な手術に加えて、臓器移植手術、内

視鏡による低侵襲手術、手術部位の確認をリアルタイムに行いながら執刀するナビゲーション手術、内視鏡下手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いたロボット手術などの先進手術を積極的に取り組んでいます。

当部が最も重視しているのが、患者さんに安心して手術を受けていただけるシステムづくりです。平成25年4月には、WHO(世界保健機関)が推奨する「手術安全チェックリスト」を本院用にカスタマイズして導入しました。麻酔前、皮膚切開前(手術直前)、患者退室前(手術後のトリプルチェック)により、患者さんの取り違えを防ぎ、手術部位・内容などの情報を共有す

るとともに、病棟看護師への申し送りなども徹底しています。感染症対策として手術室には厳格な空調管理が重要で、高性能フィルターを組み込んだシステムにより、20の手術室が並ぶホール全体を、埃の少ない清浄な状態に保っています。そのうち2室は、空調管理がさらに厳格な「垂直層流型バイオクリーン手術室」であり、感染に対する配慮が強く求められる心臓血管外科や臓器移植手術など、年間800件ほどの手術が行われています。

平成20年度からは、循環器関連の先進医療に必須ともいえる「ハイブリッド手術室」も整備しています。これは外

「高度な先進医療を受ける患者さんには不安もあると思いますが、手術の安全に関する当部のチェック体制は胸を張れるレベルです。また、医療スタッフの健康や精神面は患者さんに少なからぬ影響を及ぼすことでもありますので、患者さんだけでなく職員も笑顔で安全に働ける環境を作ること心がけています」と、南正人手術部長は話しています。

では腫瘍144件、股関節111件、リウマチ・関節疾患88件、肩関節50件、脊椎外科99件、小児整形67件、手の外科94件、スポーツ70件、その他34件となっています。

先進医療に関しては、コンピュータ支援による手術ナビゲーションシステムを開発・導入し、変形性股関節症や大

腿骨頭壊死症など、股関節連疾患による機能障害に対して、正確で安全性が高く、個々の患者さんに最適な骨切り手術・人工股関節置換術などを実施しています。

一人ひとりの患者さんに対する説明や診療に十分な時間をとり、高度な医療を提供できるよう努めています。患者さんの訴えに真摯に耳を傾けることを重視し、基礎研究に基づく先進医療を提供できる整形外科であるため、60名を超える医師一同、さらなる努力を重ねてまいります。

ガンバ大阪 チャリティーオークション寄付金贈呈式



大阪大学とフレンドシップ協定を締結しているガンバ大阪より、ガンバ大阪選手会が行った「ユニフォームチャリティーオークション」の売上金から150万円の寄付を本院の小児科にいただきました。寄付金贈呈式は8月4日に市立吹田サッカースタジアムで行われました。贈呈式では、西野貴治ガンバ大阪選手会会長より野口眞三郎病院長に目録が手渡されました。西野選手は「地域社会のために、また、未来ある子どもたちのために少しでもお役に立てれば、という思いで今回このチャリティーを企画しました。たくさんの方のファン、サポーターの思いも寄せられたので、ぜひ子どもたちのために役立ててほしいと思います」と話されました。本院では、小児医療体制のさらなる充実がこの寄付金を役立てていくこととしています。